

# 学内の外注業務を技術部が請け負うことによる技術部 予算の増額例

佐々木 健<sup>12</sup>、松下 清文<sup>13</sup>、津田 正和<sup>13</sup>、青島 拓也<sup>14</sup>、間賀田 泰寛<sup>1</sup>  
(浜松医科大学 <sup>1</sup> 技術部、<sup>2</sup> 器官組織解剖学講座、<sup>3</sup> 医療廃棄物処理センター、<sup>4</sup> 医用動物資  
源支援部)

SASAKI Takeshi, MATSUSHITA Kiyofumi, TSUDA Masakazu, AOSHIMA Takuya, MAGATA Yasuhiro:  
Increase in the Budget for the Department of Technology by Taking on Outsourcing Works of Our University.

The budget for the department of technology of Hamamatsu University School of Medicine's was less than 10,000 yen for each staff, and travel expenses for staff training were insufficient. Therefore, we took on the challenge of significantly increasing the budget by inspecting the university's fume hood, which had previously been outsourced, and having a part of the outsourcing budget transferred to our department. As a result, our budget has been increased by 600,000 yen, and the process is reported here.

## 1. 目的

浜松医科大学の令和4年度技術部予算は、所属人数の27人に対して25万7千円であり、この予算で、技術職員の研修旅費や備品購入に執行するなど、厳しい状況であった。一方で、数年前より大学からの依頼で、技術部は学内の安全衛生業務(衛生巡視やドラフト点検)に協力していたが、解剖実習室や病理解剖室など一部のドラフト点検は外部委託のままであり、これらのドラフト点検には438万円が安全衛生経費として計上されていた。このような背景から、本学技術部がこれらドラフト点検の一部を請け負うことで大学経費の圧縮に貢献すると同時に、その点検予算の技術部への付け替えによる技術部予算の増額を計画した。

## 2. 令和4年度技術部予算について

先述のように、令和4年度の技術部予算は25万7千円であった。その予算執行の旅費の内訳は表1のとおりであるが、令和4年度も引き続きコロナウィルスの影響があり、オンラインの研修や講習が多かったため、出張旅費は少なかった(表1、2)。

## 3. 令和5年度技術部予算とそこに至る経緯

令和5年度の予算は、例年の減額(1%程度)を見越し25万4千円の執行計画であったが、目的で述べたような経緯から、令和4年度中から予算の付け替えによる増額交渉を開始した。

表 1. 令和4年度技術部予算の旅費

用務先	人数	金額
東海北陸技術職員合同研修 物理・化学コース(岡崎)	1	9,400円
オンサイト英語研修(名古屋)	1	2,460円
東海北陸技術職員合同研修 情報コース(能美)	2	74,800円
第2回技術部セミナー講師 旅費(静岡)	1	6,860円
医学教育等関係業務功労賞表彰式(東京)	1	19,080円
東海北陸技術職員合 代表者会議(岡崎)	1	4,700円
ソフトマテリアル分科会 2022年第2回講演会(三島)	1	35,140円
小計		152,440円

表 2. 令和4年度 技術職員参加のオンラインイベント

オンラインイベント	人数	開催日
琉球大学コアファシリティシンポジウム	1	7月29日
琉球大学コアファシリティシンポジウム	2	12月02日
東海北陸技術職員合 代表者会議	3	12月27日
KEK 技術職員シンポジウム	1	1月19-20日
研究基盤 EXPO	6	12月27日
第34回生物学技術研究会	12	2月16-17日
実験・実習技術研究会 2022	1	3月2-3日
技術職員 TAMARIBA シンポジウム	10	3月15日

衛生工学衛生管理者の資格を有しドラフト点検にも詳しい技術部技術職員(学内安全衛生委員会の委員も兼任)が、外部委託のままになっているドラフト点検の施設等を調査した上で、それを技術部で行った場合の経費と業務時間を算出し、それらを外部委託の場合と比較した。これをまとめた資料を作成し、技術部長(教員)の許可のもと、副技術部長(筆者、学内安全衛生委員会委員)とその当該技術職員とで、外部委託経費の執行担当である施設課安全衛生係との交渉を行った。

その結果、令和5年度においては、ドラフト点検業務に付随するスクラバー洗浄等の一部の内容を技術部が請け負い、それにより外部委託費の80万円を減額し、その80万円うち60万円を技術部予算に付け替えることでまとまった(20万円の圧縮)。

その後、この予算の付け替え案を年度末の学内安全衛生委員会に提出して承認を得た後、続いて学内の技術部運営委員会にも提出、承認を得た。これにより、令和4年度の技術部予算25万7千円に付け替え分の60万円が加わり総額85万7千円となって、その会計課からの減額3%が入って、実際は83万2千円となった。これら一連の流れを図にまとめた(図1)。

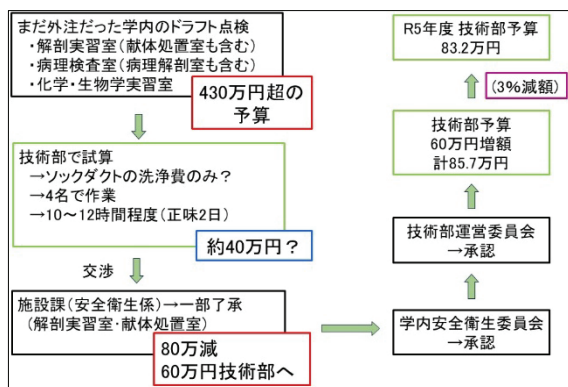


図1.令和5年度の予算増額に至る流れ

本予算の増額により、令和5年度の技術部当初予算案と執行(R6年2月14日現在)は表3のようになった。

表3.令和5年度技術部予算の執行内訳

品名/内容	備考	執行
第64日本臨床細胞学会総会春期大会	名古屋国際会議場(名古屋市)	11180
1-3月分超微形態解析利用料振替		5000
認定電気工事従事者認定講習会	電気文化会館(名古屋市)	24380
日本産業衛生学会 産業衛生技術部会	機械振興会館(東京都港区)	19080
令和5年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修	名古屋大学(名古屋市)	20580
令和5年度東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修	金沢大学角間キャンパス(金沢市)	52700
衛生工学衛生管理者講習	中部安全衛生サービスセンター(名古屋市)	140280
名刺マルチカード		561
ネームホルダー		2673
インバータラッシュシューティングトレーニング	名古屋FAテクニカルセンター(名古屋市)	22390
ノートパソコン		127600
2023年度多次元相関顕微鏡法研究部会	理化学研究所(和光市)	19620
第57回日本実験動物技術者協会総会	コラッセふくしま(福島市)	64720
ソフト名札ケース		770
第62回日本臨床細胞学会秋期大会	福岡国際会議場(福岡市)	70659
参加費(第62回日本臨床細胞学会秋期大会)	福岡国際会議場(福岡市)	13000
植物電子顕微鏡若手ワークショップ2023	理化学研究所 横浜キャンパス(横浜市)	47600
7-9月分B3画像情報スタジオ利用料振替		3060
第35回生物学技術研究会	岡崎コンファレンスセンター(岡崎)	9400
第35回生物学技術研究会	岡崎コンファレンスセンター(岡崎)	9400
第35回生物学技術研究会	岡崎コンファレンスセンター(岡崎)	9400
保護具着用管理責任者選任時研修	大阪労働衛生総合センター(大阪市)	61000
新任衛生管理者実務研修	中部安全衛生サービスセンター(名古屋市)	26770
化学物質管理者専門的講習	中部安全衛生サービスセンター(名古屋市)	75430
安全衛生	545710	
非安全衛生	278543	
残	7747	

#### 4. 今回の予算増額のポイント

今回の取り組みにおいて、施設課との交渉のポイントや、各委員会で提示する資料のポイントを以下にまとめた(図2)。

##### 施設課との交渉や各委員会でポイント

- ・目的(目標)は支出(ドラフト点検費用)の削減
- ・技術部には点検に従事できる技術職員が既に複数名在籍
- ・技術職員は業務の見直し・効率化により点検に従事する時間も確保可能
- ・予算の用途として従事者の増員や技術・知識向上のための費用を明示

図2.施設課との交渉や各委員会でポイントコストカットによる大学への貢献、マンパワーの確保をアピールしつつ、業務継続のための費用も明示した

#### 5. まとめと考察

本学で技術部が発足して現在に至るまでの20年以上の間、技術部の予算が増額したことは一度もなく、今回増額は初めてのことであった。このような取り組みにより予算を増額できたことは、今後の技術部活動の参考になり、これを記録することも非常に有意義である。なお、本件も含めて技術部の運営における要点を図3にまとめた。

##### 技術部運営での全般的なポイント

- ・学内のことをよく知る(お金の流れも含めて)
- ・仲間(技術職員間)の情報交換
- ・様々なこと(他人の業務、資格、得意)に関心を持つ
- ・事務局との関係も構築する
- ・事務局や教員との交渉
- ・コミュニケーション

##### 図3.技術部の運営におけるポイント

今回の取り組みから考えられた「技術部運営におけるポイント」をまとめた。下線に示したように、いずれにおいても、各所とのコミュニケーションが重要であると思われる。

一方で、今後はこの増額した予算をどのように使っていくか、その用途に関する明確なルール作りが必要になると思われる。また今回の安全衛生業務は、新たに加わった業務であり、技術部各職員の本務との兼ね合いや、また業務に関わった職員の評価への反映も今後の課題になると思われる。

#### 謝辞

本取組みを遂行するにあたり、浜松医科大学施設課の皆様へ深く感謝いたします。